

各報道機関担当記者 殿

北陸の心房細動患者を対象とした調査研究で 血中BNP値が高いほど脳梗塞の発症リスクが高まることを発見

心房細動は、脈拍がバラバラになる不整脈の一種で、放っておくと脳梗塞や心不全、認知症などを引き起こす可能性がある病気です。また、心房細動は高齢者に多くみられ、現在わが国には140～150万人の患者がいるとされ、70歳代の6%が心房細動であるという報告もあります。心房細動で脳梗塞を発症すると半分以上の患者が死亡、寝たきり、要介護となるため、その発症予防が極めて重要です。

金沢大学医薬保健研究域医学系循環器病態内科学の山岸正和教授、川尻剛照准教授、附属病院循環器内科の津田豊暢助教、附属病院検査部の林研至助教らのグループは、2013年から北陸の心房細動患者の年齢、生活習慣、持病、治療状況を登録し、1年ごとに脳梗塞や出血などのイベント発症状況や治療の変化などを追跡しています。今回、追跡開始2年目のデータより、登録時のBNP値(正常値として一般に普及しているのは18.4 pg/ml以下です)が170 pg/ml以上の患者では脳梗塞を含む血栓塞栓症の発症率が高いことを突き止めました。BNPは、心臓の機能が低下して心臓への負担が大きいほど数値が高くなるホルモンで、血液検査で簡単に測定することができます。この発見は、心房細動の重症度を評価する際の新しい目安となり、心房細動における脳梗塞の発症を予測し、予防するための指標となるなど、わが国における心房細動診断・治療のガイドラインにも加わる可能性があります。

つきましては、**本件について下記のとおり記者説明会を行いますので、ご案内申し上げます。**

記

1. 日時 平成30年3月8日(木)午後5時00分から(20分程度を予定)
2. 場所 金沢大学医学図書館2階 十全記念スタジオ
(金沢市宝町13-1) [別紙参照]
3. 説明者 山岸 正和 医薬保健研究域医学系・教授
津田 豊暢 附属病院 循環器内科・助教
林 研至 附属病院 検査部・助教
4. 内容 パワーポイントによる研究内容の説明

News Release

なお、本研究に係る論文は、日本循環器学会学術誌「Circulation Journal」に掲載されました（オンライン版公開日：日本時間 2018年2月28日（水）午前1時）。

研究内容に関するお問い合わせ先：

金沢大学医薬保健研究域医学系 循環器病態内科学

教授 山岸 正和

電話：076-265-2250 または 2259

E-mail：myamagi@med.kanazawa-u.ac.jp

※なお、本研究内容に関する説明会前のお問い合わせは受付いたしません。

取材に関するお問い合わせ先：

総務部広報室戦略企画係 舘 正裕樹

電話：076-264-5024

E-mail：koho@adm.kanazawa-u.ac.jp

医薬保健系事務部総務課医学総務係 上山 聡子

電話：076-265-2109

E-mail：t-isomu@adm.kanazawa-u.ac.jp